

日銀所長の あさひかわ楽

19

仕事柄、金融や経済の情勢を地元金融界、経済界、行政関係者などに対してお話しする機会が多くありますが、一般市民を対象として講演する機会もあります。旭川には「百寿大学」と称して、現役を引退した方々向けに、公民館で学習会が開かれており、その一環としてお話をさせていた

旭川の魅力、底力

く、よそ者からみた旭川の魅力、底力といった話もさせていたでいます。私は、旭川に赴任して三年になりますが、旭川はとても魅力的なところだ。まるで宝石の原石をみているようだ。地元とよそ者が混ざり合って、地元の魅力を磨いていけば、必ずや展望は開けるだろう」と思っています。

具体的に語りましょう。まずは、大雪山系をはじめとする美しい自然環境です。四季折々、風景の変化が楽しめるのも魅力です。澄みきった空気、清らかな水もすばらしいと思います。川や橋、河川敷には一目で旭川とわかる場所もあります。次に、豊かな食材も旭川

ならではの魅力です。旬の野菜、山の幸はもとより、内陸の旭川でこれほど新鮮な海の幸が提供されているとは思いませんでした。これは、民間の卸売市場が古くから発達してきたからでしょう。また、高度な医療サービスも旭川の強みです。何といっても、大き過ぎず、小さ過ぎない、堂々とした地方中核都市。明治、大正、昭和の匂いが残っている、フェース・トゥ・フェースの温もりがある街、ということが出来ると思います。

ところで、当地に来てから少々気になるのは、「旭川には何も無い、特徴のない街だ」と謙遜して語られる方がおられること

す。私は、「そんなことありませんよ」と言っています。北海道第二の都市であると共に、東北以北では第三の都市でもあります。東北では県庁所在地にも匹敵する人口を擁しているということです。経済発展にとって人口は大きな意味を持っています。人口が減っているのであれば、一人当たりの生産性を高める必要があります。旭川にはそのように生産性を高める余力、底力があるのだと思います。旭川は自ら持てる強みを、もっと自信をもって、対外的

にアピールしたいと思えます。いろいろな機会に言うていますが、再度、転勤族を活用していただきたいと申し上げたいと思います。私の前に所長をやった者、かつて旭川勤務をした人は、当地に来て皆、旭川のファンになっています。我々転勤族は全国を巡る広報マンとも言えますから、旭川のよき理解者、応援団にもなり得ると思っています。

（日本銀行旭川事務所長）
※毎月第二週に掲載します

尾家啓之（おいえひろゆき 一九五八年昭和三十三年）東京都生まれ。八一年（同五十八年）日本銀行に入行。米岡フシントンでの勤務や、橋本内閣の行政改革会議事務局への出向、総務人事企画役などを経て、〇七年（平成十九年）から旭川事務所長。趣味は音楽全般、ミュージカル鑑賞、社交ダンス。